

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回吉川市産業振興会議
開 催 日 時	平成30年 5月31日(木) 午前・ 午後 10時00分から 午前・ 午後 11時55分まで
開 催 場 所	吉川市役所 201会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】近藤 旭、柏瀬 浩史、太田 久年、染谷 直志、田口 政博、石田 宏記、蓮見 良平、山崎 守 【委員以外の出席者】 青木 浩(新和環境株式会社 代表取締役)、中原 恵人(市長)、堀川 昌昭(産業振興部副部長)、油川 誠(農政課課長補佐)、斎藤 歩美(地域福祉課課長補佐)、相川 美佐子(市民参加推進課男女共同参画・文化交流担当主査)、荒木 昌彦(都市計画課課長補佐)、城取直樹(教育委員会教育総務課管理係長)
欠席委員(者)氏名	鈴木 努、生田 貴之、程田 幸秀
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課 課長 櫻井 敬雄 商工課 課長補佐 鈴木 康雄 商工課 商工観光係長 柴田 守彦 商工課 商工観光係 主任 小島 慎平
会議次第と会議の公開又は非公開の別	○吉川市産業振興会議委嘱式 1. 開会 2. 委員の委嘱 3. 市長あいさつ ○第1回吉川市産業振興会議 1. 開会 2. 委員および事務局の紹介 3. 会長・副会長の選出 4. 議題(公開) (1) 産業振興計画について (2) その他 5. 閉会
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	3人
会議資料の名称	資料1 次第 資料2 委員名簿

	資料3 吉川市産業振興計画案 資料4 吉川市産業振興計画策定スケジュール
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	近藤 旭、柏瀬 浩史
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
中原市長	<p>○吉川市産業振興条例検討委員委嘱式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員の委嘱 3. 市長あいさつ <p>○第1回吉川市産業振興条例検討委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員および事務局の紹介 3. 会長・副会長の選出 <p>立候補なし。事務局案として、会長に太田久年委員、副会長に田口政博委員を提案。全会一致で承認。</p> <p>太田会長より、会議録確認指定者として近藤委員、柏瀬委員を指名。各委員了承。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 議事 <p>事務局より資料3、資料4を説明。産業振興計画に関する意見交換を実施。</p> <p>事業者への一方的な補助ではなく、働く人や市民も幸福実感を得ることができる、そんな支援が望ましい。それが条例の理念でもある。一方、市の最上位計画として総合振興計画がある。これを踏まえた産業振興計画としたい。産業振興会議で検討した案については、どのよ</p>

事務局	<p>うに事業者や勤労者に伝え、意見を募るのか？</p> <p>今後の会議の開催と並行して関連団体へのヒアリングやアンケートを行うことを考えている。また、パブリック・コメントも実施予定。</p>
中原市長	<p>産業振興計画案の最後のページの基本的施策について、現状の考えをそれぞれコメントしたい。「産業基盤整備」の1点目はテクノポリスの拡張。農地転用の壁があるが、先行中の吉川美南駅東口の開発が終わった後、すぐに取り掛かれるように県・国と調整を進めていきたい。2点目は、三輪野江地区の開発。周辺の道路網整備の計画もある。ここは新しい産業ゾーンとして、先進農業や新エネルギーのモデル地区として整備ができないかと考えている。続いて「挑戦の推進」は、海外販路開拓や事業者連携等の相談に応じられる体制にしたい。「事業承継の推進」に関しては、零細企業同士のM&Aも推進し、事業者の減少を食い止めたい。また、金融機関との連携を密にして、会社の移転や倒産の前段階で支援できればと考える。企業誘致の面では、文化芸術拠点を共に作れる企業があればと考えている。吉川駅前についても再整備を行い、行政機関や産業支援機関を集積したい。「経営基盤強化」の面では、生産性向上に関して国が力を入れている。吉川市では、固定資産減免等の国の制度を積極的に活用しつつも、産業振興基本条例の理念を実現できるように枠組みを整備したい。「雇用/就労の支援とワークライフバランス」ではテレワークの推進による女性の就労機会の拡大や教育との連携を検討したい。人材確保では行政と事業者が連携してワークとライフの両面からPRを進めたい。これは「職住近接の推進」にもつながる。「産業経済団体との連携強化」では、商工会に加え、それ以外の団体とも連携を深めたい。それもイベントだけではなく、「産業を通じた教育」として、課外授業や奨学支援等で連携頂けないかと考えている。「地域ブランドの推進」では“大吉（だいきち）ブランド”を立ち上げたい。なまずに限らず、吉川として推せるものをバックアップしたい。これは「観光基盤整備」にも</p>

	<p>繋がっていく。さらに、観光協会の民営化にも挑戦し、事業者の柔軟なアイデアをもっと取り入れられるようにしたい。また、なまずの産業化も挑戦したい。養殖場に加え、加工場やレストランを併設し、高齢者や障がい者の就労の場所としたい。「エネルギー」についての理想は、市内で使われるエネルギーは市内で賄えるようにすること。エネルギーのビジョンについては、環境部門と別途計画を策定する予定。農業についても、植物工場のような考え方もある。これらについて、引き続き、新和環境の青木社長に、取り組みを紹介して頂きたい。</p>
青木社長	<p>建築現場の廃棄物から作った木片チップを炭化炉に入れ、水蒸気と反応させて得られた水性ガスを用いてタービンを回して発電する仕組みを研究している。廃材利用に加え、稲作の廃棄物であるもみがらや稲穂で同様のことを出来ないかを検討している。もみがらや稲穂を粉砕・固形化する装置は既にあるため、これを使って発電までできるかどうかを確かめたい。地元がたくさんある原料を使い、エネルギーの地産地消ができないかにチャレンジしたい。</p>
中原市長	<p>現在、圧縮したもみがらや稲穂はどのように使われているのか？</p>
染谷委員	<p>炭にして利用している例がある。木炭同様、燃料として商品になっているようである。しかしながら、通常は、畑に撒いて肥料にしたり、野焼きを行ったりしている。野焼きは周辺住民の苦情の原因にもなっており、心苦しい面である。</p>
青木社長	<p>前述の装置で固形化、炭化してできた炭を、水質浄化フィルタとして使えないかを考えている。ただし、もみがら等で作った炭がどのような特性があるかは実際に評価してみないと分からない。一方、現在進めている木質チップでは、発電や熱源としての利用が見えてきている。例えば、農業と連携して、冬場に農業のハウスの暖房に使ったり、なまずの養殖池の暖房に使ったり、複数の用途で事業化できると、採</p>

<p>中原市長</p>	<p>算が合うようになり、地元産業にも貢献できると考えている。</p>
<p>染谷委員</p>	<p>現在、もみがらの廃棄処理はどうしているのか？</p>
<p>油川農政課課長 補佐</p>	<p>野焼き等により自前で処理してしまうか、専門の業者にお金を払って引き取ってもらうなどしている。</p>
<p>中原市長</p>	<p>もみがらと食物残渣を混ぜて肥料化する例もあると聞いたことがある。エネルギーとしては、保存が効く炭として、防災備蓄用として利用されることもある。ただし、燃焼後の灰にガラス状のシリカが多いことが課題。</p>
<p>青木社長</p>	<p>市民農園の改修も課題。旭地区の拠点としたい。キーワードは農業。農業廃棄物を利用する施設の検討も価値がある。民間の力も必要。</p>
<p>青木社長</p>	<p>木材の他、石膏ボードの処理も課題。石膏成分を石膏粉として分離する技術はあるが、再利用先が見つかっていない。畑の土壌改質で石灰を撒くと聞いているので、この代替品として石膏粉が使えないか検討を始めたところである。</p>
<p>中原市長</p>	<p>水素による発電はどうか。</p>
<p>青木社長</p>	<p>設備投資を進め、水性ガスを用いた発電で自家消費電力から賄い始めたい。また、大手メーカーとの連携が必要になるが、生成した水素を圧縮水素ガスとして使用することも検討したい。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>自社では、主に建材の塗装を行っている。業界では、塗料の溶剤（VOC）が環境に与える影響や、塗料を含んだ汚泥の処理が長年の課題となっている。各種業界の産業廃棄物を集めて何かできないかを考えるのも面白く、理解も得やすいと思う。ただ、1社でやろうとしても</p>

	<p>難しいので、何か枠組みがあるとよい。塗料カスなど、多くの産業で課題になっているのではないだろうか。</p>
青木社長	<p>自社の焼却施設で廃油やプラスチック、汚泥は燃焼して処理し、熱源として利用している。マテリアルとしての利用は難しいのが現状。</p>
事務局	<p>ここまで、多くの意見を頂いている。資料3の最終ページにある施策の方針(案)の部分は、条例検討時のキーワードから作成している。この部分を今後の議論、頂いた意見を元に整理していきたい。</p>
中原市長	<p>最終的にどのような形にまとめるのか？</p>
事務局	<p>施策の方針の部分をもう少し具体的に記載し、どんな事業を進めるのかが分かるようにしたい。</p>
近藤委員	<p>産業振興条例検討委員会の最後に示された資料のように、具体的に事業の例を示したものがたたき台としてあると議論しやすい。</p>
事務局	<p>今日の議論を振り返ると、以前出したものに、エネルギーやリサイクルの観点、事業者連携の部分を加えるべきかと思う。</p>
太田会長	<p>エネルギーシフトは長期的課題だと思う。エネルギーは全ての産業に関わってくる。グローバルではドイツが先進的であり、国内の市町村では小田原市が力を入れて取り組んでいると聞いたことがある。そういった事例を参考にしながら、まちづくりにどのようにつなげていくか考えていく必要がある。また、このような大きな話の他に、速やかに取り組まなければならない話もあると思う。このメンバーで全てを同時に検討するのは難しい。ワーキンググループのように、専門家を交えて進めることも考えたほうがよい。市の総合振興計画の進捗を踏まえる必要もある。</p>

田口副会長	<p>計画には目指すべき具体的な数字を記載するのか？実行性のない計画を作っても意味はない。産業振興の方針を示したとしても、できないことが書かれていたら、何のための計画かわからない。例えば、なまずの養殖の計画だとしたら、年間の出荷トン数、流通形態、小売価格等の目標や、生産から販売までの事業者連携について具体的に定める必要があるのでは？加えて、各項目について、実行の可否を判断した上で計画としなければならないのではないかと？</p>
中原市長	<p>そこまで定める必要はないと思う。まずは、計画として大枠を定めることができればよいと考える。</p>
事務局	<p>まずは3年間の計画としたい。その期間で実現性のあるものは、ある程度具体的に示し、長期的なものは、大枠のみ示すのではどうか。</p>
田口副会長	<p>この計画に、さらに細かい実施計画がぶら下がるという認識でよいのか？この計画で1歩進むことができても、その先が無いようでは、計画策定の効果はなく、「作って終わり」となってしまう。しかしながら、すぐにでも手を付けなければならない事項もある。</p>
中原市長	<p>「検討に踏み出す」ということも含めた計画とすべき。</p>
田口副会長	<p>「やっぱりできませんでした」では、計画に書いた意味がない。やればできる、という内容にすべき。</p>
中原市長	<p>長期的な検討を視野に入れて「こういった検討を開始する」という宣言でもよいと思う。今すぐできることだけ書いては、目指す姿にはたどり着かない。逆に、計画に書いたら、動かなければならない。そういった意味でも、計画に書くことは大切と考える。</p>

事務局	<p>実現可能性の検討というところから始めてもよいのではないだろうか。設定期間内にその結論を出し、進む方向を判断し、計画の見直し時に修正するのもよいと考える。その上で、どうすれば実現できるかの知恵やアイデアは委員の皆さんから出して頂けると助かる。</p>
田口副会長	<p>計画は作っただけでは意味がない。実効性を保つには、達成したかどうかを常に評価する必要がある。</p>
事務局	<p>産業振興会議のご協力も頂けたらと考えている。</p>
中原市長	<p>計画を実行する中には、行き詰まるものも出てくると思う。そのときの方向転換は、計画があるからできることだと思う。</p>
事務局	<p>総合振興計画には実施計画が付随しており、毎年評価している。</p>
中原市長	<p>まずは、実現性に縛られることなく、基本的施策の14項目に付随する施策の方針について考えてみたい。</p>
近藤委員	<p>先に太田会長の発言にあったワーキンググループを作るというのは、いい案だと思う。基本的施策の各項目はある程度カテゴライズできる。全員集まった場で全てを議論するのは難しい。委員の中で分担し、市の担当課にも入ってもらって検討するのも効果的と考える。ただし、時間がかかる。</p>
中原市長	<p>このメンバーで施策の方針を考えていくのでよいと思う。まずは項目を洗い出し、具体化を進めたい。</p>
近藤委員	<p>議論のために都市計画を確認したい。地域ごとに、農業、工業、文化交流、など、産業のテーマを決める、あるいは特区のようなものを設置してもよいと思う。</p>

中原市長	産業基盤整備の項目で話し合いたい。次回の会議で「施策の方針」の精査と取捨選択、最初の3年で取り掛かる部分を議論したい。
事務局	施策の方針については、もう少し細かい内容も記載して資料として出したい。また、各種団体にヒアリングした内容については事前にお知らせしたい。
田口副会長	今回青木社長の話を聞いたのはよかった。次回は誰か呼ぶのか？
太田会長	施策の方針には女性活躍も入っているが、委員に女性がいない。具体的なことを議論する上では、実際に女性活躍の推進活動をされている方の専門的な知見からコメントを頂きたい。
中原市長	女性活躍の視点は大切。今後は女性活躍や農業を手掛けている方に参加して頂くのも参考になるのではないか。
山崎委員	本会には今回のようにオブザーバーを招くことができる出来る規定があるので、ご要望があればご意見を頂きたい。
事務局	会議資料については、施策の方針について加筆修正し、最終版に近いものを作成し、会議前に配布する。会議ではすぐに議論に入れるよう、資料の事前確認をお願いしたい。
	5. 閉会
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成30年 6月13日</p> <p>署名委員 近藤 旭（自署） 署名委員 柏瀬浩史（自署）</p>	